

2026(令和8)年度  
学校推薦型選抜(後期指定校)入学試験問題  
小論文  
(時間 60 分)

下の新聞記事を読み、AI（人工知能）に関する現状とそれに対するあなたの考えを 300 字以上 600 字以内で論じなさい。その際、次の①、②、③の問いに沿って、議論を展開しなさい。

- ① AI に対する認知率やその利用に関する現状について、簡潔に述べなさい。
- ② AI に対する認識について、世代間の特徴を簡潔に述べなさい。
- ③ AI に対するあなたの認識を述べるとともに、どのような利用方法が考えられるのか、自由に述べなさい。

なお、誤字・脱字、常用漢字不使用は減点の対象となるので注意しなさい。また、指定された文字数に満たない場合は、評価対象外になります。

#### 博報堂 DYHD Human-Centered AI Institute 調査 社会を制御される不安も

ここ数年で AI（人工知能）は大きな進化を遂げ、私たちの生活、産業、社会全体に多大な影響を与えている。博報堂 DY ホールディングス Human-Centered AI Institute では、生活者の AI への認識や利用動向などについて 2023 年に引き続き、24 年 10 月に「AI と暮らす未来の生活調査」を実施した。調査結果をもとに、その進歩と未来への展望について考察する。

24 年は ChatGPT に代表される生成 AI が一般の生活者に普及した年であった。認知率は 29% から 56% に、毎月利用率は 8% から 18% と、ともに前年よりほぼ倍増した。利用方法も「面白そうだから試してみよう」という 23 年から、24 年には「実務的な利用へのシフトし生活の中になじんできた」ことがうかがえる。

使い方やノウハウが SNS や YouTube で共有され、情報収集や要約、アイデア出しなど生成 AI が得意としている用途の利用が特に増えている。

調査結果を年代別に見るとさらに特徴が見えてくる。大学生、社会人になるタイミングで AI が活用されている状態の「AI ネーティブ」（10 代）は、「デジタルネーティブ」（20 代、30 代）や「ノンデジタルネーティブ」（40 代以上）とは AI に対する認識に顕著な違いが見受けられる。

AI を使いこなしていると自認する比率は、デジタルネーティブの 35%（20 代）、25%（30 代）に対して、AI ネーティブの 64%（10 代）と 2 倍近い開きがあった。AI ネーティブの

世代においてはAIが生活の中で自然と使われている状況にあることが今回の調査における発見となった。

当然のことながら、AIに対する不安は年代問わず存在する。全体の3分の2が「AIに社会をコントロールされてしまう不安がある」としている。ただ、年代によって不安の内容は異なる。

AI ネーティブの自由記入のコメントでは「課題をやってくれたり、勉強を教えてくれたり、体温を計ってくれたり、楽だし手放せなくなるけど怖い」との回答があった。AI を使いこなしている AI ネーティブは「何が不安なのかを理解した上での不安」と回答していると考えられる。一方、50代、60代は「AI を使いこなしている」がそれぞれ11%、9%と低く、「漠然としたAI に対する不安」を感じていると推測される。

調査からは、AI が便利なツールであるという認識は浸透している一方で、AI が「人に寄り添ってくれる」という認識が、AI ネーティブを中心に高くなってきていることも分かった。

例えば「AI は、困難な状況で自分を励まし、サポートしてくれる存在だ」としたのは10代が59%。30代は45%、60代は42%。「AI は自分の感情に寄り添った対応をしてくれる」と答えたのは10代が55%、30代が38%、60代が27%となっている。

AI ネーティブからは「友人のような、お手伝いのような、サポートしてくれる存在」「憧れの存在。使いこなせたらよりよい生活を手に入れられる」といった声があがった。多くの非AI ネーティブ層にとっては、新しい視点ではないだろうか。

(2025年3月21日付日経MJ、3頁、AI「使いこなしている」10代64%、「恋人になってほしい」28%、寄り添う存在に) 一部略